

# 1. 評価結果概要表

作成日 平成 22年 3月 21日

## 【評価実施概要】

事業所番号	0175800259		
法人名	株式会社 クオス		
事業所名	ほのかの里 桜丘		
所在地	夕張郡栗山町桜丘1丁目80番地74 (電話) 0123-72-5323		
評価機関名	株式会社 サンシャイン		
所在地	札幌市中央区北5条西6丁目第2道通ビル9F		
訪問調査日	平成22年3月20日	評価確定日	平成22年3月31日

【情報提供票より】(平成 22年 3月 10日事業所記入)

### (1) 組織概要

開設年月日	昭和(平成) 16年 7月 15日		
ユニット数	1 ユニット	利用定員数計	9 人
職員数	12 人	常勤 4人、非常勤 8人、常勤換算 5.9人	

### (2) 建物概要

建物構造	木造鋼板葺き 造り	
	1 階建ての	1 階部分

### (3) 利用料金等(介護保険自己負担分を除く)

家賃(平均月額)	18,000 円	その他の経費(月額)	光熱水費:12,000円 暖房費:5,000円(12-3月)
敷金	有(円)		(無)
保証金の有無(入居一時金含む)	有(円)	有りの場合償却の有無	有 / 無
食材料費	朝食	円	昼食 円
	夕食	円	おやつ 円
	または1日当たり		1,300 円

### (4) 利用者の概要(3月 10日現在)

利用者人数	9 名	男性 0 名	女性 9 名
要介護1	0 名	要介護2	2 名
要介護3	2 名	要介護4	3 名
要介護5	2 名	要支援2	0 名
年齢	平均 88.2 歳	最低 77 歳	最高 102 歳

### (5) 協力医療機関

協力医療機関名	とくち内科胃腸科ファミリークリニック、 あらい歯科
---------	---------------------------

## 【外部評価で確認されたこの事業所の特徴】

近くにホームセンターやスーパーがあるなど便利な地域に位置している平屋建て1ユニットのグループホームである。デイサービス棟に隣接し、庭には共同の東屋も設置され、利用者同士や地域住民と日光浴などを楽しむことができる。建物は明るく清潔で開放的であり、トイレや風呂も使いやすく造られている。介護度が高い利用者が多いが、個々の希望やペースに合わせたきめ細かいサービスが提供されている。職員や管理者は利用者に優しくゆったりと接し、大切にしている。食事面では栄養バランスの取れた家庭的で味の良い食事が提供されており、医療面でも利用者の希望に沿った通院支援が行なわれている。また、職員同士の人間関係も良好で利用者の安心に繋がっている。

## 【重点項目への取組状況】

重点項目	前回評価での主な改善課題とその後の取組、改善状況(関連項目:外部4)
	前回の外部評価の「取り組みを期待したい項目」については、事業所独自の理念、理念の共有などの項目を改善しているが、引き続き取り組みが必要な項目もあり、職員全員で話し合い、改善に向けての継続的な取り組みを期待したい。
重点項目	今回の自己評価に対する取り組み状況(関連項目:外部4)
	自己評価の作成は全職員が参加する方法ではなく、職員間での内容検討の話し合いも十分とはいえないので、職員全員の参加やガイドブックの活用、記載内容の充実などを期待したい。
重点項目	運営推進会議の主な討議内容及びそれを活かした取り組み(関連項目:外部4,5,6)
	運営推進会議は、町の福祉部、町内会の方、地域住民、利用者家族、法人代表、管理者などが参加して、夏祭りと同様開催したり、運営報告、サービス評価などをテーマに開催しているが、開催は年2回程度に留まっており、議事録も整備されていないので、会議を活かせるようテーマを事前に準備し、開催回数の増加を図るとともに、議事録の整備も期待したい。
重点項目	家族の意見、苦情、不安への対応方法・運営への反映(関連項目:外部7,8)
	家族の来訪時に口頭で意見を聞いたり、運営推進会議で家族に意見を聞いている。また玄関にアンケートと回収箱を設置しており、重要事項説明書に事業所と外部の苦情申し立て窓口を明示している。
重点項目	日常生活における地域との連携(関連項目:外部3)
	町内会に加入し、事業所の夏祭りには近隣の住民が参加している。事業所の職員が子供を連れてきて利用者と交流することもある。運営推進会議には町内会や地域の方の参加も得ている。

## 2. 評価結果（詳細）

外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
<b>. 理念に基づく運営</b>					
<b>1. 理念と共有</b>					
1	1	地域密着型サービスとしての理念 地域の中でその人らしく暮らし続けることを支えていくサービスとして、事業所独自の理念をつくりあげている	理念の4項目を「ゆったりと楽しく」「自由に、ありのままに」「暮らしの喜びと自信を」「いつも笑顔で」と定め、昨年、事業所独自で項目を追加した。一方、地域との関わりの中で本人を支える内容に関してはまだ十分とはいえない。		理念の中に地域との交流や協力に関する項目も加え、地域密着型サービスとしての理念をより明確化されるよう期待したい。
2	2	理念の共有と日々の取り組み 管理者と職員は、理念を共有し、理念の実践に向けて日々取り組んでいる	事業所の理念を玄関から良く見える共用部分に掲示し、パンフレットにも記載している。職員も理念の内容を十分に理解し、「ゆったりと」「自由に」などの項目を意識して日々の介護にあたっている。		
<b>2. 地域との支えあい</b>					
3	5	地域とのつきあい 事業所は孤立することなく地域の一員として、自治会、老人会、行事等、地域活動に参加し、地元の人々と交流することに努めている	町内会に加入し、事業所の夏祭りには近隣の住民が参加している。事業所の職員が子供を連れてきて利用者と交流することもある。運営推進会議には町内会や地域の方の参加も得ている。		
<b>3. 理念を実践するための制度の理解と活用</b>					
4	7	評価の意義の理解と活用 運営者、管理者、職員は、自己評価及び外部評価を実施する意義を理解し、評価を活かして具体的な改善に取り組んでいる	前回の外部評価の「取り組みを期待したい項目」については、事業所独自の理念、理念の共有などの項目を改善している。一方、自己評価の作成は全職員が参加する方法ではなく、職員間での内容検討の話し合いも十分とはいえない。		自己評価の作成にあたって、職員全員の参加やガイドブックの活用、記載内容の充実などを期待したい。また外部評価においては引き続き取り組みが必要な項目もあり、職員全員で話し合い、改善に向けての継続的な取り組みを期待したい。

外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
5	8	<p>運営推進会議を活かした取り組み</p> <p>運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている</p>	<p>運営推進会議は、町の福祉部、町内会の方、地域住民、利用者家族、法人代表、管理者などが参加して、夏祭りと同時に開催したり、運営報告、サービス評価などをテーマに開催しているが、開催は年2回程度に留まっており、議事録も整備されていない。</p>		<p>運営推進会議を活かせるようテーマを事前に準備し、開催回数の増加を図るとともに、議事録の整備も期待したい。</p>
6	9	<p>市町村との連携</p> <p>事業所は、市町村担当者と運営推進会議以外にも行き来する機会をつくり、市町村とともにサービスの質の向上に取り組んでいる</p>	<p>町の職員が運営推進会議に参加するほか、代表者や総合施設長が栗山町ケア会議に参加し、町の担当者と情報交換を行なっている。運営に関する相談事項があれば町の担当者に相談している。</p>		
<b>4. 理念を実践するための体制</b>					
7	14	<p>家族等への報告</p> <p>事業所での利用者の暮らしぶりや健康状態、金銭管理、職員の異動等について、家族等に定期的及び個々にあわせた報告をしている</p>	<p>家族の面会時に利用者の状況を報告しており、利用者ごとの個別のお便りも作って家族に送付している。職員の交代はその都度報告し、預かり金の動きは本社より家族に報告されている。一方、ホーム全体の様子が分かるようなお便りは作成されていない。</p>		<p>ホーム全体の様子や行事予定、連絡事項などを掲載したホーム便りを定期的に作成し、家族に提供するように期待したい。</p>
8	15	<p>運営に関する家族等意見の反映</p> <p>家族等が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている</p>	<p>家族の来訪時に口頭で意見を聞いたり、運営推進会議で家族に意見を聞いている。また玄関にアンケートと回収箱を設置しており、重要事項説明書に事業所と外部の苦情申し立て窓口を明示している。</p>		
9	18	<p>職員の異動等による影響への配慮</p> <p>運営者は、利用者が馴染みの管理者や職員による支援を受けられるように、異動や離職を必要最小限に抑える努力をし、代わる場合は、利用者へのダメージを防ぐ配慮をしている</p>	<p>勤続年数の長い職員は安定しており、利用者のダメージにつながるような離職はほとんどない。稀に離職がある場合は利用者のダメージを低くするために伝えないようにしている。</p>		


外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
<b>5. 人材の育成と支援</b>					
10	19	<p>職員を育てる取り組み</p> <p>運営者は、管理者や職員を段階に応じて育成するための計画をたて、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている</p>	<p>管理者を中心に外部研修の回数を重ねており、一般職員も年に数回、外部研修に参加している。内部研修は外部研修に参加した者の報告会という形で開催したり、会社で作成した各種マニュアルの勉強会を行なっている。</p>		
11	20	<p>同業者との交流を通じた向上</p> <p>運営者は、管理者や職員が地域の同業者と交流する機会を持ち、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている</p>	<p>代表者や管理者は町内の介護関連事業者の会議に参加して他の同業者と交流する機会を持っているが、管理者以外の職員は他のグループホームの職員と交流する機会がほとんどない。</p>		<p>管理者以外の職員も、外部研修での職員間のグループワーク、系列のグループホーム職員との交流、ネットワークを活用した他のグループホームへの相互訪問などの形で、同業者と交流機会が持てるよう取り組みを期待したい。</p>
<b>.安心と信頼に向けた関係づくりと支援</b>					
<b>1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応</b>					
12	26	<p>馴染みながらのサービス利用</p> <p>本人が安心し、納得した上でサービスを利用するために、サービスをいきなり開始するのではなく、職員や他の利用者、場の雰囲気徐々に馴染めるよう家族等と相談しながら工夫している</p>	<p>利用開始前に本人が事業所を見学できる場合は見学に訪れ、納得した上で利用を決めている。見学訪問が難しい場合は総合施設長が本人と馴染みの関係を築き、利用開始時に本人に付き添ってスムーズに利用開始できるよう支援している。</p>		
<b>2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援</b>					
13	27	<p>本人と共に過ごし支えあう関係</p> <p>職員は、本人を介護される一方の立場におかず、一緒に過ごしながらか喜怒哀楽を共にし、本人から学んだり、支えあう関係を築いている</p>	<p>利用者の介護度の進行に伴い、利用者が職員に様々なことを教えてくれる場面は減っているが、トイレや食事介助の場面で職員に感謝の言葉を掛けてくれたり、美味しいものを食べたときなどに喜びを共有している。</p>		

外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
<b>. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント</b>					
<b>1. 一人ひとりの把握</b>					
14	33	<p>思いや意向の把握</p> <p>一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している</p>	<p>長く勤務している職員が多く、思いや意向を言葉で表わすのが困難な利用者も表情や仕草から希望を把握できている。また、利用開始時に利用者の基本情報や課題分析シートを作成し、職員間で情報を共有している。</p>		
<b>2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し</b>					
15	36	<p>チームでつくる利用者本位の介護計画</p> <p>本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映した介護計画を作成している</p>	<p>利用開始時に本人や家族からの情報、課題分析などを基にケアマネジャーが中心となって介護計画を作成しており、計画とともに週間サービス計画表も作成している。作成した介護計画は家族に説明され、別紙の同意書に署名捺印を受けている。</p>		
16	37	<p>現状に即した介護計画の見直し</p> <p>介護計画の期間に応じて見直しを行うとともに、見直し以前に対応できない変化が生じた場合は、本人、家族、必要な関係者と話し合い、現状に即した新たな計画を作成している</p>	<p>3ヶ月ごとにモニタリングシートに沿ってカンファレンスを行ない、介護計画を見直し作成している。討議内容はサービス担当者会議の要点として記録している。身体状況の変化がある場合は追加的な見直しも行なっている。見直し後の介護計画についても家族の同意をもらっている。</p>		
<b>3. 多機能性を活かした柔軟な支援</b>					
17	39	<p>事業所の多機能性を活かした支援</p> <p>本人や家族の状況、その時々要望に応じて、事業所の多機能性を活かした柔軟な支援をしている</p>	<p>利用者の希望する病院への通院支援をきめ細かく行なっている。理美容は美容師の資格を持つ系列事業所の職員により3ヶ月に1度行なわれている。また、隣接するデイサービスでの歌謡ショーを見に行くこともある。家族の希望があれば利用者の部屋での宿泊も可能である。</p>		

外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
<b>4. 本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働</b>					
18	43	かかりつけ医の受診支援  本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	提携医以外でも利用者の希望や家族の依頼に基づき、希望する病院への通院支援を行なっている。受診内容や薬の変更などを業務日誌に記録し、必要に応じて家族に報告している。		
19	47	重度化や終末期に向けた方針の共有  重度化した場合や終末期のあり方について、できるだけ早い段階から本人や家族等ならびにかかりつけ医等と繰り返し話し合い、全員で方針を共有している	重度化した場合の対応について職員間で事業所の方針を共有し、利用開始時に事業所で対応が可能な範囲を説明して家族の納得を得ているが、説明書類や指針・同意書などは作成していない。		重度化した場合や終末期の対応について口頭で説明するだけでなく、事業所の方針を示した文書を作成して本人や家族に説明し、同意の署名捺印を受けることを期待したい。
<b>. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援</b>					
<b>1. その人らしい暮らしの支援</b>					
<b>(1) 一人ひとりの尊重</b>					
20	50	プライバシーの確保の徹底  一人ひとりの誇りやプライバシーを損ねるような言葉かけや対応、記録等の個人情報の取り扱いをしていない	利用者の呼び方は「さん」付けで統一しており、プライバシーに配慮した声掛けや対応が行なわれている。個人の記録は事務所に安全に保管・管理し、介護記録も他の利用者が見えないように配慮している。来客の受付簿は作成せず、職員が日誌に来訪者名を記録している。		
21	52	日々のその人らしい暮らし  職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	一定のルールはあるが、利用者は1日を自由に過ごすことができ、起床の時刻や食事開始時間、散歩や外出の参加なども本人の希望通りである。日光浴を楽しんだり、車椅子での散歩も職員が支援している。		

外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
(2) その人らしい暮らしを続けるための基本的な生活の支援					
22	54	食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	調理の時には、利用者によってもやしの根取りやエンドウのすじ取りなど簡単な下ごしらえを手伝ってもらっている。献立は法人の総合施設長により作成され、味の良い家庭的な食事が提供されている。利用者と職員は会話しながら楽しく食事をしている。		
23	57	入浴を楽しむことができる支援 曜日や時間帯を職員の都合で決めてしまわずに、一人ひとりの希望やタイミングに合わせて、入浴を楽しめるように支援している	日曜以外を入浴日とし、各利用者が週2回以上の入浴をしている。午後の時間帯が中心だが、夜間や午前中でもシャワー入浴が可能である。入浴拒否の激しい方はおらず、曜日やスタッフを変え入浴を促している。介護度が重い方は2人介助で行なっている。		
(3) その人らしい暮らしを続けるための社会的な生活の支援					
24	59	役割、楽しみごと、気晴らしの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、楽しみごと、気晴らしの支援をしている	カーテンの開け閉め、簡単な調理の下ごしらえなど利用者は個々の能力に応じて手伝っている。塗り絵やちぎり絵、かるた、歌などを楽しんだり、夏祭り、クリスマスなどの行事を楽しみにしている。		
25	61	日常的な外出支援 事業所の中だけで過ごさずに、一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援している	夏場は毎日のように近所の商業施設や住宅街を散歩したり、東屋で外気浴を行なっている。帰宅願望が見られる利用者を家の近くに車で連れて行くこともある。現在は往診体制がないため通院での外出機会が多い。		
(4) 安心と安全を支える支援					
26	66	鍵をかけないケアの実践 運営者及び全ての職員が、居室や日中玄関に鍵をかけることの弊害を理解しており、鍵をかけないケアに取り組んでいる	鍵をかける弊害を理解し、日中は玄関の鍵をかけていない。玄関にセンサーを設置し、外出が把握できるようになっている。利用者の外出の傾向を把握しており、外出の気配があれば同行している。		

外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
27	71	災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を身につけ、日ごろより地域の人々の協力を得られるよう働きかけている	年2回の避難訓練を消防署の協力のもと実施しているが、夜間想定訓練は行っていない。また、災害時の地域住民への協力依頼は十分とはいえ、職員の定期的な救急救命訓練も実施していない。		年2回の避難訓練のうち1回は夜間想定訓練を行なうとともに、災害時の地域住民との協力体制の構築、職員の定期的な救急救命訓練の受講を期待したい。
(5) その人らしい暮らしを続けるための健康面の支援					
28	77	栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	総合施設長が作成した献立を管理栄養士に確認してもらい、カロリーや栄養バランスが調整されたメニューとなっている。また、利用者の食事や水分摂取量を大まかに記録し、摂取量が少ない場合は調整している。		
2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり					
(1) 居心地のよい環境づくり					
29	81	居心地のよい共用空間づくり 共用の空間（玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等）は、利用者にとって不快な音や光がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	共用空間は明るく開放的で、壁には利用者の写真、風景画の版画、貼り絵や塗り絵などが飾られている。居間と食堂が一体的で広く、大きなソファが置かれ、居心地の良い造りとなっている。温度、湿度なども調整され快適に過ごせるよう配慮されている。		
30	83	居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	居室には利用者が自由にベッドやタンス、テレビなど馴染みの品物を持ち込むことができ、安心して過ごせる場所となっている。壁にも自作のカレンダーや馴染みの絵など利用者が自由に飾り付けをすることができる。		

 は、重点項目。

WAMNETに公開する際には、本様式のほか、事業所から提出された自己評価票（様式1）を添付すること。